



社会福祉法人 吉備路の会

吉備路学園

第56号

令和5年5月31日 発行

発行

社会福祉法人 吉備路の会
吉備路学園
〒719-1155
岡山県総社市小寺1553番1
TEL(0866)92-6580
http://kibijigakuen.ecgo.jp



無心の空

人様にお世話になったときには「ありがとう」「自分が悪いと思ったら」「ごめんなさい」「朝、近所の人に会うたら」「おはようございます」

皆さん、おじいちゃんやおばあちゃんからそのように言われて育ってきたことでしょうか。

我々の福祉の仕事は、「感謝と謙虚な態度」だと思います。日々、折々に子供たちに言っている聞かせる必要があります。単純な、しかも大切な言葉の繰り返しですが、祖母の言葉の中にあつたと思えます。母や祖母の生活態度を思い出し、如何に苦労してこの自分を育ててくれたのか、その生活態度の中に教えがあると思うと実がありがたいものであります。そのような言葉がしみじみと実感できることがあります。単純で何気ない言葉ではありませんが、恥ずかしがることなく、明るい笑顔でたくさんの人たちに「ありがとう」「ごめんなさい」「おはようございます」「さよなら」「もったいない」の日々の実践を伝えていきたいと思えます。

今年度も、共生社会の実現を目指すために、利用者・職員共に地域の方々に対する感謝の気持ちと謙虚な態度を忘れずに、取り組んでいきたい。また、利用者の方々に対しても清らかな心で接し信頼関係を深めていきたいものであります。

言葉の念

理事長 小原 章弘



吉備路学園 自治会活動



◆グループ外出◆



◆お花見◆



◆足湯◆



◆グループ外出◆



◆誕生日会◆



「新年度を迎えて」

障害者支援施設吉備路学園
管理者 横枝 浩文

いよいよ令和5年度に突入しました。昨年度はWBCにおいて、侍ジャパンのドラマティックな優勝がとても印象的で心に残りました。コロナ関連や虐待のニュースなど、暗いニュースが多かっただけに、ことさらに明るく勇気づけられるものでした。

二刀流で投打の活躍を期待され、見事になしえた大谷選手、活躍を期待され大きな重圧から不振が続いた村上選手、指を骨折しながらも要所でチャンスを作った源田選手...

招集されたすべての選手が、それぞれの役割を全うし、お互いを支え合っている姿に胸が熱くなりました。

今年度、吉備路学園も侍ジャパンのように職員一人ひとりが役割を自覚し、一丸となって利用者の方の生活を支えていきたいと思います。そして、利用者の方一人ひとりは、それぞれの人生の主人公として、個性豊かなドラマを作り上げてほしいと思います。



新年度を迎えて

相談支援事業所

サポート吉備路

管理者 村上 雅昭

相談支援事業所を開設して2年半が経ちました。

皆さんもご存じの通り、現在障がい福祉の分野においても高齢化が進み、2025年に65歳以上の方が、人口の約21%を超える超高齢化社会の時代になると言われています。

相談支援事業所でも、支援すべき問題がより複雑化、複合化しており、単一機関で支援を行う事が困難になっているケースが多くなってきています。サポート吉備路でも包括的な相談支援事業を進めていくと共に、重層的な支援が行えるよう他機関と共同しながら、連携を深めていきたいと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症蔓延により、ここ数年、直接面会できず電話連絡や窓越し面会が多くなっています。相談支援事業で本来、行うべき自宅訪問や事業所訪問などが十分行えていないケースが少なくありません。

今年度は本来の形に戻り、直接対面で話ができる機会を増やし、心が通いあう相談支援事業を目指していきたいと考えています。



令和5年度・みぞくち重点目標

多機能型事業所みぞくち

所長 延原 良純

1. 毎日頑張つて働いている就労の皆さんの工賃を向上させること。
2. コロナ等感染症の発生及び蔓延予防に関する取組を継続すること。
3. 災害や感染症が発生した場合であっても、利用者の皆さんが必要とする障害福祉サービスを継続的に提供できるよう、体制を整えるための業務継続計画を策定すること。

そして最重要目標は、今ご利用の皆さんが、元気に毎日通って頂くためには何かが必要か考え実践していくこと。

さらに、総社市及び近隣市町村にお住まいで障害福祉サービスを必要とされる多くの方に、みぞくちの障害福祉サービスを提供すること。

これらを重点目標として取り組みます。優先順位はありません、全てが重要です。容易く成しえるものばかりではありませんが、目標達成に向けて職員一同邁進してまいります。

新年度を迎えて

日中サービス支援型
共同生活援助吉備路

サービス管理責任者

延吉 彦志

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の猛威に翻弄され、日常生活の当たり前さえがままならない状況でした。また、地域の方々との交流も皆無の状況でした。

5月8日以降からは、政府より新型コロナウイルスの感染症の位置づけを5類へ変更する旨の方針が示されるなど、日常生活を取り戻す明るい兆しも見えてつあります。

令和5年度は、入居者20名＋ショートステイ利用者の方々と共に、今以上に外出する機会を増やし、外気に触れ、地域の方々とも交流する機会を作り、事業所が地域の中に溶け込み、利用者の方が地域の方々とともに豊かな生活を営めるよう、職員一丸となって取り組み、無財の七施の心を持つて支援に邁進していきます。



ゆずりはグループ紹介

リーダー 伊原 良高

2023年度は新たな気持ちでグループ名を「ゆずりは」グループと変更し、利用者17名でスタートしました。「ゆずりは」の意味として代々に引き継ぐ繁栄の象徴、永世変わらず健康が続く事を願って、次のステップに行けるようお願いの意味を込めてつけさせてもらいました。

今年度は特に余暇や行事など利用者が楽しめることをたくさん行っていきたい、学園生活がより楽しくなるよう支援していきたいと思えます。今年度もよろしくお願い致します。



◆寄付◆

令和四年十二月一日

令和五年四月三十日

〈敬称略 順不同〉

- 吉備路学園家族会
- 吉備路の会後援会
- 総社市をつなぐ育成会
- 総社市阿曾地区社会福祉協議会
- 島村倫子

新年度を迎えて (ワクワクする)

障害者共同生活援助
グループホーム井手

管理者 古賀 信彦

長きに渡り猛威を振るつたコロナウイルス感染症も落ち着き春の陽気にワクワクしている自分がいいます。

ここ数年、利用者の方も自粛生活を余儀なくされていた事もありコロナがら類感染症に移行した事で一気にかつての春が戻って本当に嬉しく思っている事と思います。3月13日にはマスクの着用が個人の判断となるなど、様々な規制が緩和されつつあります。それにより、人と会いやすくなる・マスクなしで人と会える・外出時の不安が減るといった期待が出来てワクワクしている事でしよう。

さて、新年度を迎えグループホームでは5月1日より女性のグループホームを増員して定員23人から26人に増やしてスタートしました。今年度は、新たな利用者を迎えワクワクする生活を送れるよう職員一同サポートしていきます。



新任のおしらせ

《新任職員紹介》

- 令和五年二月一日付 支援員 小林 健二
- 令和五年三月二十日付 支援員補助 佐藤 美由紀
- 支援員補助 黒崎 佳絵
- 令和五年四月一日付 支援員 渡邊 正人
- 支援員補助 難波 清子
- 令和五年四月十七日付 支援員補助 宮崎 真由美



編集後記

新年度がスタートして早ヶ月が経ちました。この春も気温の寒暖差があり、体調等崩されてはいないでしょうか。

今年度も皆様に愛される施設を目指し、職員一同を引き締めて支援に取り組んでいきたいと思えます。ぜひよろしくお願致します。